雪印内牛用配合飼料を使った

乳用雄仔牛の肥育 ③

宇都宮市経済部農林課 生沼 薫

本誌昭和四十二年四月号、七月号において発育過程などについてご紹介いたしましたが、本事業を総合し、その成績をご報告いたします。

一 増体成績

増体成績は第十表の通りです。

つぎに飼育期間を大別して三期に分け、

第一期……導入から生後三ヵ月令までの哺乳期

第二期……生後三ヵ月から五ヵ月間の育成期

第三期……育成期から生後一二ヵ月～一六ヵ月の肥育期

としこの増体成績をみると、第十一表のとうりです

第十一表にみられるように第一期（哺乳期）の一日当たり増体量が比較的少ないのは農家自身がこの事業に全く未経験であり、さらに農繁期のため完全な飼養管理ができなかったこと、下痢発生を恐れ給与量を加減したことが原因と考えられるが、これらのことが全期を通じて増体量に影響している。

第10表　増体成績

番号	導入時体重	出荷時 生後日数	出荷時 体重	増体量	1日当たり増体量
	kg	日	kg	kg	kg
1	42.0	378	405.0	363.0	0.960
2	42.0	373	395.0	353.0	0.946
3	43.0	367	327.0	284.0	0.774
4	47.2	364	358.0	310.8	0.854
5	48.7	362	416.0	367.3	1.015
6	—	—	—	—	—
7	49.9	369	325.0	275.0	0.745
8	43.8	369	402.0	358.2	0.971
9	42.8	369	398.0	355.2	0.963
10	49.9	369	380.0	330.1	0.895
11	50.0	365	321.0	270.0	0.740
12	43.0	365	375.0	332.0	0.910
13	46.5	365	400.0	353.5	0.968
14	44.3	365	369.0	324.7	0.890
15	43.0	365	384.0	341.0	0.962
16	44.0	365	388.0	344.0	0.942
平均	45.0	367	376.0	330.84	0.903

注　6号牛は骨折のため廃用とする

二 飼料の給与量および飼料費

給与飼料は導入時人工乳に切替える一～二日間全乳を給与した他、雪印カーフミルク、カーフフード、若齢肥育用配合、肉牛用前期、肉牛用後期、この他自給飼料の活用をはかるため粉砕大麦、ふすま、大豆粕、とうふから等を利用し、後半は時間給与であったため、第十二表でみるとうり給与量は比較的少ない。

個体毎の発育を測定しているところ

三 事業の収支

販売方法は枝肉取引を目的としたのであるが、生産者代表、畜産団体代表者をもって数次にわたり開催した販売対策会議の結果、生体セリ取引を行なったため、肉質等の調査について報告できないことを遺憾に思っております。

第十三表にみるように販売適期体重は少なくとも生体重四〇〇キロ以上でなければならないが、さらに有利に販売するためには生体重四五〇キロを突破させることが必要である。

総括

第11表

期別における増体量

番号	第1期（哺乳期）				第2期（育成期）				第3期（肥育期）			
	導入時体重	期末体重	増体量	1日当たり増体重	前期末体重	期末体重	増体量	1日当たり増体量	前期末体重	期末体重	増体量	1日当たり増体量
	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
1	42.0	101.8	59.8	0.68	101.8	273.0	171.2	1.13	273.0	405.0	132.0	0.97
2	42.0	109.9	67.8	0.82	109.9	252.0	142.1	0.93	252.0	395.0	144.0	1.06
3	43.0	74.4	31.4	0.41	74.4	228.0	153.6	1.01	228.0	327.0	99.0	0.72
4	47.2	87.0	39.8	0.54	87.0	240.0	153.0	1.00	240.0	358.0	118.0	0.87
5	48.7	102.1	53.4	0.68	102.1	248.0	145.9	0.96	248.0	416.0	168.0	1.23
6	40.0	79.7	39.7	0.56	79.7	190.0	110.3	0.72	—	—	—	—
7	49.9	94.2	44.3	0.55	94.2	240.0	145.8	0.96	240.0	325.0	85.0	0.62
8	43.8	89.5	45.7	0.57	89.5	251.0	161.5	1.07	251.0	402.0	151.0	1.11
9	42.8	99.9	57.1	0.71	99.9	263.0	163.1	1.08	263.0	398.0	135.0	0.99
10	49.9	97.6	47.7	0.60	97.6	236.0	138.4	0.91	236.0	380.0	144.0	1.06
11	50.0	93.4	43.4	0.57	93.4	251.0	157.6	1.04	251.0	321.0	70.0	0.51
12	43.0	91.9	48.9	0.64	91.9	250.0	158.1	1.05	250.0	375.0	125.0	0.91
13	46.5	93.0	46.5	0.60	93.0	240.0	147.0	0.98	240.0	400.0	160.0	1.17
14	44.3	93.4	49.1	0.63	93.4	235.0	141.6	0.94	235.0	369.0	134.0	0.98
15	43.0	79.7	36.7	0.47	79.7	249.0	169.3	1.13	249.0	384.0	135.0	1.00
16	44.0	82.0	38.0	0.49	82.0	238.0	155.5	1.04	238.0	388.0	150.0	1.10
平均	45.0	91.9	46.9	0.59	91.9	243.0	151.1	0.99	246.0	376.0	130.0	0.95

注 ① 第1期は導入後から8月前期まで，第2期は8月前期から1月前期まで，第3期1月前期から5月28日までとする。
② 第3期における6号牛は骨折のため廃用とする。

第12表

飼料給与量及び飼料要求率

番号	日数	増体量	給与量	飼料費	1日当たり飼料費	飼料要求率	増体量1キロ当たり飼料費	備考
		kg	kg	円	円		円	
1	378	363.0	1,750.4	66,793	177	4.82	184	給与量、飼料費は濃厚飼料のみにして粗飼料はふくまれない。
2	373	353.0	1,783.8	63,879	171	5.05	181	
3	367	284.0	1,523.7	56,115	153	5.37	198	
4	364	310.8	1,333.8	51,056	140	4.29	164	
5	362	367.3	1,924.6	69,687	193	5.24	190	
7	369	275.0	1,658.1	62,201	169	6.03	226	
8	369	358.2	1,740.7	66,058	179	4.86	184	
9	369	355.2	1,896.1	74,003	201	5.34	208	
10	369	330.1	1,606.2	59,754	162	4.87	181	
11	365	270.0	1,381.9	53,662	147	5.12	199	
12	365	332.0	1,406.6	54,832	150	4.24	165	
13	365	353.5	1,146.5	46,746	128	3.24	132	
14	365	324.7	1,405.2	55,434	152	4.33	163	
15	365	351.0	1,663.5	62,992	173	4.74	179	
16	365	344.0	1,446.4	54,974	151	4.21	160	
平均	367	331.5	1,577.8	59,880	163	4.75	180	

以上乳用雄仔牛肥育事業の概要について述べてきましたが、筆者自身このようなことには未経験であり、仕事を通して勉強し経験したということで、内容的に極めて不十分な説明であったと思いますが、この点について皆様方のご判断により理解していただければ幸甚に存じます。

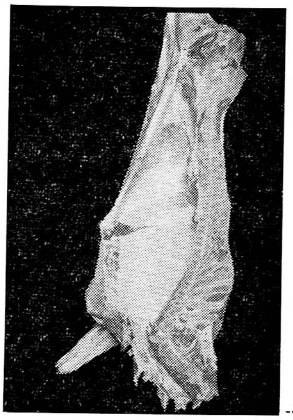
なおこの事業をかえりみて、前述したことと重複する点もありますが、今一度、要点を記してみたいと思います。

(1) ご紹介した成績については各試験研究機関の成績に比し必ずしも満足したもの

第13表　　事業の収支

番号	生体重	販売価格	支出			差引金額	1日当たり粗利益
			素牛代	飼料費	計		
	kg	円	円	円	円	円	円
1	405.0	128,000	9,000	66,793	75,793	52,207	134.9
2	395.0	120,000	7,000	63,879	70,879	49,121	131.7
3	327.0	—	10,000	56,115	66,115	—	—
4	358.0	—	9,500	51,056	60,556	—	—
5	416.0	126,000	9,000	69,687	78,687	37,313	103.1
7	325.0	—	12,000	62,201	74,201	—	—
8	402.0	113,200	12,000	66,058	78,056	35,144	95.2
9	398.0	101,500	11,000	74,003	85,003	16,497	44.7
10	380.0	95,000	13,000	59,754	72,754	22,246	60.3
11	321.0	—	12,000	53,662	65,662	—	—
12	375.0	—	11,000	54,832	65,832	—	—
13	400.0	111,300	11,750	46,746	58,496	52,804	144.7
14	369.0	90,000	11,750	55,434	67,184	22,816	62.5
15	384.0	100,500	11,750	62,992	74,742	25,778	70.6
16	388.0	100,000	11,750	54,974	66,724	33,276	91.2
平均	376.0	108,550	10,833	59,880	70,714	37,836	93.9

注　販売価格の空白欄はセリ取引不成立



雪印肉牛用配合飼料で肥育した乳用雄牛の枝肉（歩留りも六〇%と高い）

ではありませんが、あくまでも農家が実施した場合（労力、管理技術、設備面などにおいて試験研究機関とは著しく差があるが）はたしてそのまま受け取ることが可能かどうか、その結果から一般農家への普及奨励の可否等を多分に考慮に入れての事業でもあったのでこの点もご理解下さい。

(2)　この肥育で最も重要な問題は、素仔牛の選定と下痢についてである。

下痢の原因については前述した通りであるが、愛情をもった管理こそ必要である。

すなわち導入当日、仔牛は輸送の疲労と環境の変化で体調に変化を来たしているので、牛乳（〇・五㍑〜〇・八㍑）を一・八㍑程度まで温湯でのべ給与し、十分な休養を図り、人工乳への急激な切替えを避けること、また寒冷に敏感であるので寒冷のために胃腸障害を起こさないよう保温に努めることも肝要である。

不幸にして下痢発生の場合は体力もない故、速やかに専門家の治療をうけることが望ましい。

(3)　尿石症については冬期に多発の傾向があり、これが発育に大きく影響するので飼養管理に充分注意し早期発見に努める。

(4)　去勢については去勢をしない方が増体が良いとされているが、一般農家においては性質が荒らくなり取扱いに不便を来たすので去勢をお奨めします。

去勢の時期は生後五〜六ヵ月位が適当と思われます。

おわりに

最近乳用雄仔牛の肥育が極めて有利とされ計画なしに飛び込む傾向がうかがえるが、この事業を機械的なものでなく、着実な伸展をはかる必要があろう。

この種の肉需要は松阪牛のような特殊肉と異なり、大衆肉としてさらに利用度は拡大されるものと思われるが、現在のような好相場を夢みることは極めて危険である。

今後は和牛肥育と比較した場合どちらが経営的に有利かを見極めるべきである。

現在においては仮りに肉用素牛代一五万円とみて、ホルスタイン一頭一万円（体重四五〜五〇㌔の仔牛なら一五頭講入できる。この中二〇%の損耗があったとして一三頭を仕上げ粗利益一頭一万円とみると一三万円の粗利益が挙げられる。

これらのことを念頭におき一獲千金を夢みることなく、確固たる計画のもとで各位で方針を立てられ、この事業が健実に発展することを祈りつつ終稿といたします。